

幼稚園を覗く (四)

竹 村 一

倉橋先生、

「幼稚園を覗く」盲目の私が、數回に亙る愚論、愚感をお怒りもなく長々とお読み下さいました事を感謝いたしました。此稿を以て最後としようと思つてゐる矢先に、私の恩師膳たけ子先生の御永眠の訃に接しました。

悲しいさいふ事、それよりも日本の國寶を失つたことの方が、さんなにか、痛ましく胸を打たれました。私は不幸にして北海道に旅行中にて、歸阪早々、上京しようとする切符を求めました日は既に、御永眠の後三日目でありました。さうさう膳先生の御最後の御病床には御眼にかゝる事が出来ませんでした。

倉橋先生が鎌倉へ御訪ね遊されたことを非常にお悦びになられたこと近親の方から承りまして、日本の幼稚園界の權

威者ご國寶としての存在者の最後の會見の如何に光々しく、如何に美しかつたかを追憶するだに襟を正さずにおれない氣持がいたします。

私は膳先生を偲ぶ會にも學校の講義日で皆様ご會合する事も出来ず、獨りで書齋に閉ぢ込もつて、じつさありし日の膳先生よりうけた御恩をしみじくも考へてみました。ふ氣付いたのは、膳先生から、いたゞいた自然物の數々でした、こゝに机の上に並べてみましたのは、ほんのその一部分ではありますが、何年も、何十年も、先生が手づからならべられた自然物であります。

○ 倉橋先生。

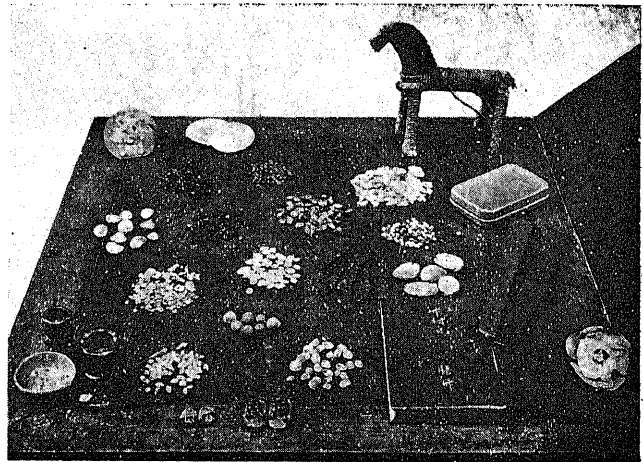
まあ御覽下さい、粘土細工のお皿も、筆立も、皆んな先

生の手でつくられましたもの、可愛い雪駄、雛人形、松かさの椿、さては先生の若き日に叩かれたピアノ代用の笏、このお辨當は先生が江戸堀幼稚園を退職される日まで持つて行かれたものであります。

中でも、私の肌身を離さず生涯の友としてみる、膳先生からいたゞきました「人の教育」、向ふに立つてゐる藁の馬は、先生の親しいお友達が膳先生へ送つて下さつた云つて、常に先生の保母室の机の後の硝子戸柵に入れてあつた品であります。

倉橋先生に、この寫眞を御眼にかけることが、せめてもの膳先生への追憶であり、又膳先生のおよろこび下さるこゝろに思ひましてこゝに寫眞に取りました。この外膳先生の受讀せられました書籍は全部、いま私の書齋の中にあつて常に私を勵まし、私を教へ、私を導いて下さつております。

「自然を愛せよ」「自然に親しめ」といふことは、膳先生の生涯の一面でありました。美しい自然を見る時、美しい木の葉を見る時、美しい木の實をみる時、小石を拾ふ時、貝殻を拾ふ時、そこには膳先生の御人格と御教訓を思ひ出さ



すにおられないのであります。

倉橋先生もそう御考へ下さるでせうね。

倉橋先生、

全日本保育大會で久し振りに先生の御元氣な御顔を拜見しまして、何ミなしにうれしい心持がいたしました。

「母」の會に於ける、あの素晴らしい何千名ミいふお母様が先生を慕つて公會堂へ、公會堂へミおし寄せた事を思ふミ、何ミ云つても、先生の御人格の光りの強さに感激させられました。日本保育界に於ける最高權威ミしての先生、日本の母の指導者ミしての先生、日本の保姆諸姉が神の如く敬仰する先生、私は此稿を終るに際して、先生の御健康を切に願つてやまないであります。(昭和十二年十二月三日)

お知らせ

皆様御見逃しにはなりませんでしたが、前月號からあの色刷り挟込みの廣告の一面が童話募集に變つて居ります。本號では普通の廣告として出て居ります。あの募集規定を御熟讀になりまして、前回にもまして、佳い作品を澤山御送り下さいますやうに願つて居ります。

(童話募集係り)